

平成28年度 県教育委員会施策の紹介

沼田特別支援学校高等部の整備

沼田地域において未整備の特別支援学校高等部を整備します。平成31年4月の開校を目指します。

小中高一体の校舎をつくることで、沼田特別支援学校の小中学部の教室不足も解消します。

高等部では、障害のある子どもに、将来自立するための力を身につけてもらうことを目的に、職業教育に力を入れていきます。

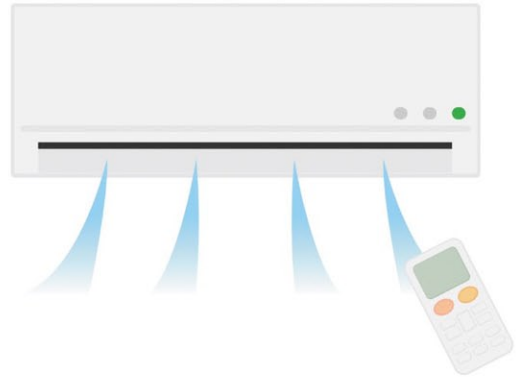


「中学部の作業学習の様子（沼田特別支援学校）」

県立高等学校空調設備の整備

全ての県立高校の空調が必要な教室に、3か年で計画的にエアコンを整備していきます。これにより、生徒がより良い環境の中で学習できるようになります。

すでにPTAがエアコンを設置している学校については、平成29年6月から、その費用を県が負担します。



他にも、富岡・甘楽地区や吾妻地区の新高校の整備や、小中学校での少人数クラスプロジェクトの継続、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの継続配置などを実施していきます。

盗掘を免れた 古代の豪華な墓

史跡

観音山古墳

場所：高崎市綿貫町・台新田町
時代：古墳時代

観音山古墳は、今から1400年以上も前に造られた、全長が約100m、高さが約10mもある、大型の前方後円墳です。

発掘時は、墳丘から大きく豪華に作られた埴輪がたくさん出土しました。円筒埴輪のほか、家や盾、人物、馬などの形象埴輪が見つかっています。

また、古代の豪族が埋葬された横穴式石室は、群馬県内でも最大級の大きさです。

石室は未盗掘で、銅製の水瓶や鏡、鉄製の武器・武具、金銅製馬具類など、豪華な金属製品が多く出土し、中には朝鮮半島や中国大陸との交流を示すものも見られます。これらは、埴輪なども含めて国の重要文化財に指定されています。

観音山古墳の周辺には、ほかにも前方後円墳や中小規模の円墳が見られることから、この地域が、「古代ぐんま」の中心地の一つであったことがわかります。



観音山古墳

よみ 黄泉の国への入り口 —巨大な横穴式石室—

石室入り口から古墳の中に入ると、はじめに狭い通路、羨道（せんどう）があり、その奥には、遺体を納める広い部屋、玄室（げんしつ）があります。玄室は、奥行き約8m、幅約4mもあります。

天井に使われている石は、最大で20tもの

重さがある大きなものですが、これらはなんと、10km以上も離れた高崎市吉井町から運ばれてきたものです。1400年以上も前の



石室内部

人々は、いったいどのようにして、石を運んだのでしょうか。

この玄室の壁からは、鉄製の吊手（つりて）金具が見つかっています。おそらく、当時は美しい布でカーテンのように石室を覆い、きらびやかな副葬品とともに、死者の世界を創り上げていたのでしょう。

現在では、古墳を当時の姿に復元して、石室の中に入って見学できるようにしてあります。団体で石室見学を希望される方は、事前に申込をお願いします。